

学際研究会 2020年10月9日

多文化共生を考える
~主に海外と日本の関係から~

一般社団法人アジアビジネス連携協議会
武井 克真

本日の内容

- 「多文化共生」や「多様性」とは？
- 自己紹介（多文化共生に関心を持つようになったきっかけ）
- 多文化共生に関連する問題点や現状
- 多文化共生は、なぜ重要なのか？
- 多文化共生は、何の役に立つのか？
- 多文化共生に向けて、何ができるのか？

「多文化共生」や「多様性」とは？

- 「多文化共生」（多文化主義）の「文化」とは何だろうか？
- 「多様性」とは、何が「多様」であることなのか？



- 「違い」や「差異」

「多文化共生」や「多様性」とは？

■ 何が「違い」や「差異」を生む？

- 海外と日本（外国人と日本人） 文化、歴史、考え方、言葉
- 民族、人種、出自 文化、歴史、考え方、言葉
- 障害者と健常者 身体
- 子供と青年、高齢者（認知症） 年齢、世代、身体
- 宗教、信仰、主義、主張 考え方、文化
- LGBTQとそうでない人 考え方、嗜好
- 男女
- 人間以外の生物と人間
- そのほか…

「多文化共生」や「多様性」とは？

■ 「違い」や「差異」とは？

- 差別や偏見の温床
- 弱者と強者の関係
- 少数派と多数派の関係

■ 「数の力」より「理由の力」

多文化共生に関心を持つようになったきっかけ

- 音楽（民族音楽、Jazz、Blues）
 - アメリカ黒人
- 中国
 - 自文化（日本）の相対化
- 中国の少数民族、アイヌと琉球
- 大連
 - 自分が外国人になった
 - 少数民族と出会った
 - モンゴル族、朝鮮族、満洲族、回族、ウイグル族
- 国際結婚
- 帰郷（伊勢崎市）

参考：伊勢崎市と群馬県

■ 外国人住民の人数（2019年末、上位5市町村）

→伊勢崎市：13,156人（6.2%）

➢ ブラジル（3,485）、ペルー（2,369）、ベトナム（2,330）、中国（653）、
韓国・朝鮮（209）

→太田市：11,687人（5.2%）

→大泉町：7,977人（19.0%）

→前橋市：7,127人（2.1%）

→高崎市：5,819人（1.6%）

→群馬県：60,036人（3.0%）・・・・112か国から（対前年比+1か国）

問題点や現状

- 差別や偏見
- 紛争
- ヘイトスピーチ
- 「隣にペルー人が来たから、引っ越したい」



- 先入観や思い込み、知らないことからくる「怖れ」



- 「違いがあるから楽しい」
- 「違い（相手）を知りたい」
- 実体験や交流の必要性

参考：調査結果など

■ 外国人と犯罪

→ 『やさしい日本語』（庵 功雄）から

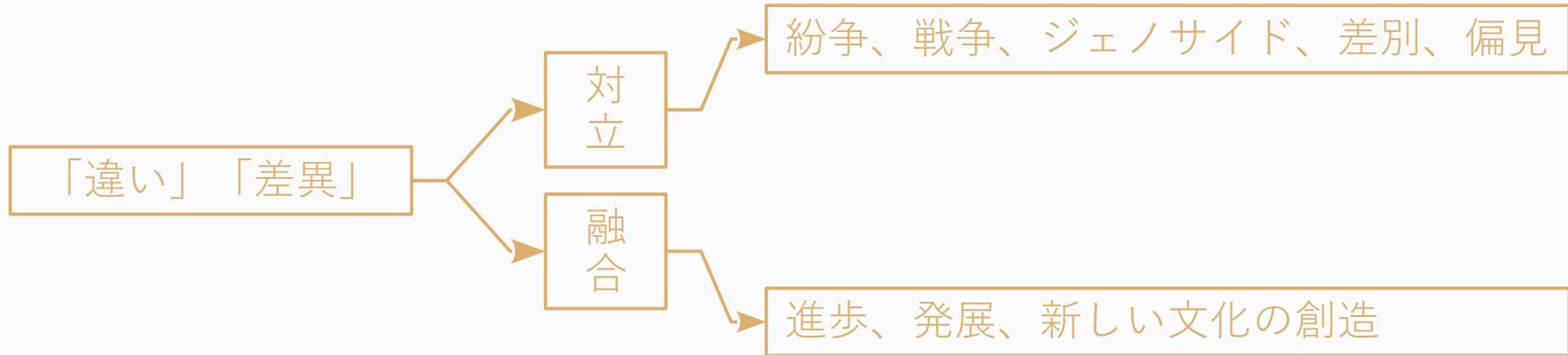
| | 総人数 | 刑法犯総検 挙人数 | 1万人当たり の検挙人数 |
|-------|-------------|--------------|-----------------|
| 日本人全体 | 125,957,000 | 276,602 | 22.0 |
| 外国人全体 | 10,607,825 | 10,419 | 9.8 |

■ 「定住外国人実態調査」（群馬県）

https://www.pref.gunma.jp/04/c15g_00017.html

多文化共生は、なぜ重要なのか？

- 多様性は「力」だ
- 多様性を維持するために、多文化共生は必要



多文化共生は、なぜ重要なのか？

■ 日本語

→ 無文字 --- 漢字 + ひらがな + カタカナ + アラビア数字 (123) + alphabet

■ 「0」の発見、科学技術の発展

→ インド（「0」の発見） --- アラビア --- ヨーロッパ --- 世界

■ 人類の歴史は混血の歴史

→ 日本 --- 縄文人、弥生人、渡来人、『騎馬民族国家』（江上波夫）、『日本の中の朝鮮文化』（金達寿）

→ 「純血」や「純粋」は幻では？

多文化共生は、何の役に立つのか？

- 多様性は新しいものを生む
- 特に、外国人との共生を考えると…



- 国際感覚の向上
- 多面的思考、複眼的思考の獲得
- 「国際人」の育成



- 「私たち（外国人）は客」（だから、日本に合わせないと）
→ 同化への圧力、すみわけ⇔共生

「国際人」とは

- 「国境」を越える
 - 身体的
 - 言語的
 - 心理的



多文化共生に向けて、何ができるのか

- 日本語教室（共育の場、相互学習の場）

- 日本語力の向上

- 各国事情を教材

- 大勢を巻き込む（当事者意識の向上）

- 日本語教育の専門家（大連外国語大学など海外の機関も含む）

- 実務経験者（退職者など）

- 小学生、中学生、高校生、大学生

- 外国人市民、日本人市民

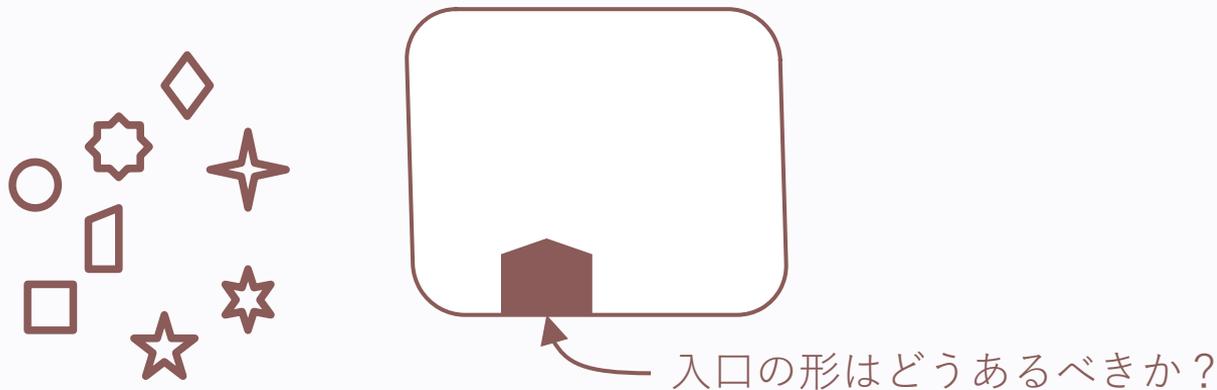
↓

- 差別意識を克服して、共生の社会へ

- 日本人市民が上から「してあげる」のではなく、対等の立場で、外国人市民の声にも耳を傾ける（当事者主権）

参考：DETでの気付き

- DET（Disability Equality Training = 障害平等研修）
- 「障害」は個人ではなく社会の側にある
 - 障害者の権利に関する条約（障害者権利条約）



アイデンティティに先行する理性
(アマルティア・セン)